



学校だより

1月号

横浜市立東本郷小学校
令和6年1月9日

ひとにやさしくありがとうの心で がんばるがんばる最後まで 本気で取り組むひがほんの子

「想定外はない」ということ

学校長 堂腰 康博

2024年1月1日、16時を過ぎた頃、石川県能登地方を震源とする「最大震度7」の地震が発生しました。元旦の夕方に起きた大きな出来事に、多くの人がテレビやSNSなどを通じて、「緊急地震速報」の通知や「大津波警報」の文字を目にしたたり、強い口調で避難を呼びかけるアナウンサーの声を耳にしたたりして、お正月のお祝いの雰囲気から一変し、不安でいっぱいになったことと思います。

被災された地域にご親類がいらっしゃるご家庭のみなさまや、能登地方にゆかりのある方におかれましては、大変なご心配とご苦勞をされていらっしゃると思います。まだまだ不安な思いやご不便な生活を余儀なくされている方々のことを考えると、胸が痛みます。

心よりお見舞い申し上げます。

現地からの災害報道が連日続いておりましたが、子どもたちは、わたしたち大人以上に、安全や安心への不安がいつそう高まっていると言われていています。学校では、必要な情報についてはもちろん共有しますし、聴くべき声についてはきちんと受け止めていきますが、偏った情報に煽られないよう、可能なかぎり日常生活のできことを大事にし、子どもたちの楽しい冬休みの思い出について話し合ったり、外に出てみんなで遊んだり、心と身体の健康を第一に過ごしていきたいと考えています。

そして、教職員間においては、学校防災のあり方を再点検することや、災害は時を選ばないことをあらためて認識し、「想定外」をなくして備えることの大切さを一人ひとりの子どもたちが実感できるような、そんな避難訓練を実施していきたいと思っています。

さて、コロナ禍が日常だった期間を過ぎて、本校では、一部でオンライン朝会や前向き給食の形態は残っているものの、以前と変わらない東本郷小学校の風景が戻ってきています。

一方、社会の加速度的な変化の中で、受け身ではなく、主体的に向き合っかかわりあい、解決を目指すプロセスを通して自分のよさや可能性を發揮し、新しい価値を生み出していける学びのあり方（授業改善）が求められています。

わたしは、教職員や子どもたちの「こんなことをやってみたい」という挑戦を受け止めて、大人も子どもも、多くの学びと経験を積んで、自信をもって自分の道を選びとり、歩み続けることができる毎日をつくっていききたいと考えています。

新しい年の始まりにあたり、子どもたち、保護者のみなさま、地域のみなさまのご多幸を心よりお祈り申し上げます。教職員一同、子どもたちの成長を願い、創意工夫して教育活動に取り組んでまいりますので、本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

